

氏名 沖 田 美佐子

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 793 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和 51 年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 フェニールケトン尿症に対するインスリンの効果
第一編 カテコールアミン代謝に及ぼす影響
第二編 血中遊離アミノ酸に対する影響

論 文 審 査 委 員 教授 水 原 舜 爾 教授 森 昭 胤 教授 大 月 三 郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

フェニールケトン尿症の治療の試みとして、患者 6 例に対して、レギュラーインスリン 0.2 IU/kg を筋注し、注射前と注射後 60 分、120 分、24 時間の血中フェニールアラニン、チロシン値ならびにカテコールアミン値を測定し、その変化を、正常人について行なった結果と比較検討した。また、インスリン注射前と注射後 120 分の血中遊離アミノ酸を分析した。

その結果、フェニールケトン尿症患者にインスリンを注射すると、血中フェニールアラニン値が低下する症例や、チロシン値の上昇する症例があることから、フェニールアラニン代謝にインスリンが何らかの影響を及ぼすことが推測された。また、血中カテコールアミン値の増加傾向が認められ、インスリンはフェニールケトン尿症のカテコールアミン代謝障害に対しても効果を有すると考えられた。血中遊離アミノ酸変化の結果からは、インスリンによって、グルタミン酸、トリプトファンなどの増加する症例のあることを知った。

このような、インスリンのカテコールアミン代謝、血中遊離アミノ酸に及ぼす効果よりみて、インスリン投与は、フェニールケトン尿症に対して、食事療法の補助療法としての効果を有するものと推論した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はフェニールケトン尿症患者にインシュリン投与を行って、血中カテコールアミン及びアミノ酸の変動を研究したものであるが、本症患者の一部にはインシュリン投与により、血中フェニールアラニン値の低下する症例や、カテコールアミンの異常低下が改善される症

例のあることを見出し、それらの患者に対するインシュリン療法の可能性を示した点で意義ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。